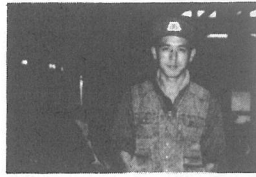


営をめざして

第15回農業振興大会

第15回農業振興大会が11月11日、町文化会館で行われました。
激変する農業情勢の中で新しい農業経営をめざし、振興会員5名による農業経営の方向や技術の研究成果等の発表がありましたので、ここに紹介します。

繁殖成績の向上をめざして



中台 伊藤 博

我が家の経営は酪農と水稲の複合経営であり、成牛40頭育成牛25頭、水田一〇〇アール畑三〇〇アールで畑はすべて飼料作物を栽培しています。乳量をあげるには、繁殖成績を向上させなければなりません。そこで牛舎に入る回数を多くして牛をよく観察し、発情を

牛の観察を適格に

適格に見きわめて確実に受精するように努めます。牛の群編成をしてカレンダーに記録し、牛舎の出入り口に取付けしておくことにより、一頭一頭がどのような状態か一目でわかるように工夫しています。餌の給与方法を濃厚飼料と粗飼料及び水を圧縮攪拌をするコンブリードフィーダーを使用し、給与を一回で済ませることにより労働力の軽減を図っています。

これらの結果、牛の発情の予測ができ、牛の体調が良くなり生殖機能が活発になるなどの成果が得られました。今後の目標として一頭平均九千キログラム（現在八千七百キログラム）以上とすることと企業の経営を目指し、家族労働力の軽減を図ることです。

切り花用苗生産に取り組んで



屋形 林 雅彦

私が農業に従事してから25年の歳月が過ぎ去ろうとしています。そして、その頃から言われていた言葉に農業の曲がり角と言う言葉がありました。それは今、さらに大きな曲がり角に達しております。このような状況の中で私たちが農業者はどうのようにしたらよいか、真剣に考えなくてはならない時機だと思えます。それは選択的大規模化か、又は効率的多様化等なんらかの方向づけが必要に思われます。

花と緑と人の調和を

そのように思う中で、私は切り花用苗生産の大規模化を選択しました。現在四五〇〇坪の加湿用温室にてカーネーションやかすみ草の苗、年間六十万本程生産し全国の切り花農家に納めております。その苗は全国あちこちで花開き商品として販売されております。来年はいよいよ花の万博が開催されます。花と緑と人と調和のとれた環境が、今更ながら人間社会に必要とされる昨今であろうかと思うこのごろです。

ふれあいの場がたのしみ

大総地区の生活改善グループが中心となって、6月16日梅集出荷場の空き地を借りハウスを建てて野菜の直売所を開設しました。自分達の家の余剰農産物（出荷規格外品等）の有効利用はないものかと、考えついたの